

# 漁況予報 いわし

## 第 1 4 3 号

2007年 9～10月漁期  
(2007年9月10日発行)

### ＝ 概況 ＝

#### 【まいわし】

主要定置網におけるマイワシ総漁獲量は、7月が289トン、8月が198トン（速報値）で、前年同期（7月：23トン、8月：21トン）を大きく上回りました。また、過去5年平均比で5倍程度の漁獲量となり、西暦2000年並の水準となりました。

魚体は、体長14～15cmの中羽（2007年級・0歳魚）がほとんどで、1歳以上の大型個体の漁獲はほとんどありませんでした。

佐島地区のまき網は、7月中旬から餌イワシとして中羽を漁獲し、8月に入ると鮮魚としての出荷も始めました。8月の鮮魚出荷量は2ヶ統で計約30トンと、2年ぶりにまとまった量となりました。

太平洋沿岸の各県等の調査結果によると、今春期のマイワシの産卵量は近年の中では高水準であり、春シラス漁におけるマシラス（マイワシの仔魚）の漁獲量も好調に推移した海域が多かったことが明らかになっています。従って、今後も2007年級主体の漁が継続し、近年のマイワシの成長の早さから、大きいもので17cmほどに成長する個体が出てくるものと考えられます。

#### 【かたくちいわし】

主要定置網におけるカタクチイワシ総漁獲量は、7月が235トン、6月が250トン（速報値）で、前年同期（7月：1032トン、8月：604トン）を下回りました。また、過去5年平均比で約半分の漁獲量にとどまりました。

佐島地区のまき網は、断続的に餌イワシとして漁獲しましたが、漁獲量は低調でした。

魚体は、7月までが11～12cmの小型～大型成魚が主体で、8月に入ると9cm未満の未成魚が主体となりました。

#### 【しらす】

7月の漁獲量は前年及び過去5年平均を上回りましたが、8月は漁獲量が減少し、好漁であった前年の6割程度で過去5年平均並みとなりました。8月は特に鎌倉以西の漁獲量が低調でした。

夏季以降に漁獲されるシラスは相模湾内で生まれたものが主体となりますので、湾内の産卵量と黒潮の流型が鍵となります。黒潮がA型やB型となると湾内への影響が大きくなり、シラスの分布に悪影響を及ぼします。今年は、7月下旬には一旦B型となりましたが、8月中旬には湾内への影響が小さいC型となりましたので、海況に関しては悪条件が解消したといえます。

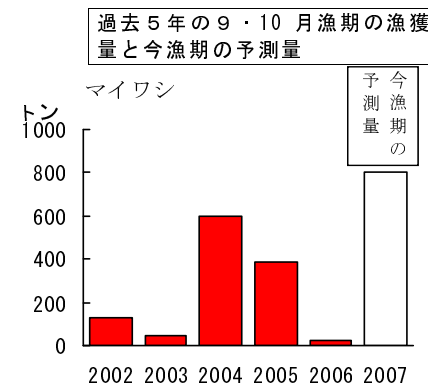
### ＝ 予報 ＝

#### まいわし

今漁期は、今年生まれの中羽マイワシが漁獲の主体となるでしょう。

3～6月のシラス漁におけるマシラス（マイワシの仔魚）の漁獲量から、今漁期の漁獲量は、約800トンと予測されます。

\* 縦軸：主要定置網+まき網

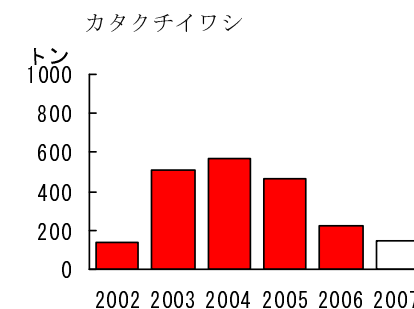


#### かたくちいわし

今漁期は、未成魚が漁獲の主体となるでしょう。

7～8月の県内主要定置網における漁獲量から、今漁期の漁獲量は約150トンと予測されます。

\* 縦軸：主要定置網+まき網



#### しらす

今漁期は、7～8月に相模湾内で生まれたカタクチシラスが漁獲の主体となるでしょう。

当センターが実施した7、8月のカタクチイワシの卵分布調査結果から、今漁期の漁獲量は、約170トンと予測されません。

